

ICT環境を活用したキャリアプランニング ～情報収集能力の育成～

平成21年度大学職員情報化研究講習会
C班6グループ

目的 情報収集能力の育成を通して主体性のある学生を育成する

目標 就職活動開始までに自己のキャリアイメージを形成させる

背景 情報収集能力及び主体性は、学習段階や社会に出たときに必要である

情報を得ることに対して受身の学生が多い

就職活動のための情報収集であれば主体的に情報収集するきっかけになるのではないか。

1年生の段階からキャリア教育を受け、早くから意識させることで目的を持った情報収集が始められる。

入学時から就職活動開始まで（3年次前期）の支援スケジュール

きっかけづくり (動機付け)	①入学時ガイダンスで事務局から将来のキャリアについて指導する(初年次教育)
	②進路決定者に進路決定までの話を聞く(上位年次生の就職活動などの <u>アンケート結果や体験記を公開</u>)
	③Webベースで <u>心理テスト形式</u> の適性診断を行い、情報収集の動機付けをする
発展	① <u>シミュレーションで履歴書を作成する</u> (キャリアセンターへ提出し、添削指導を受ける)
	⇒心理テストで適性と判定された職業に就くと仮定し、 <u>関心のある企業について調べ(企業研究)</u> 、作成する ⇒大学で募集するアルバイトの選考資料として活用する
継続させる	①こんな時には、ここを見よ！ <u>Web 掲示板では、リンクを、学内掲示板では、QRコードを貼ることによって情報に関連性を持たせ</u> 、学生が情報にたどり着きやすい方法を提示し、その状況から何をすべきかを考え、調べる習慣を身に付けさせる。
	②(情報を得たら)使ってみる！発信してみる(<u>ブログや大学独自 SNS の活用</u>)！を習慣化
	③シミュレーション履歴書を半期ごとに作成。 <u>ICTで履歴を保存し、学生自身が見直し、反省できる！</u>
行動	①3年次前期に作成するシミュレーション履歴書について、最高学年生が評価し、自身が採用者だと仮定して採用したいと思う学生を選ぶ。
	②キャリアセンターで最終的なチェックを含む面談を実施し、キャリア指導を行う。

下線部：ICTの活用

継続的に行うことで

自分で調べて情報活用を十分行うことにより、キャリア形成できるようになる。

その他期待される効果⇒学生生活で培った成果を卒業年次生時に下位年次生に教えることで、自分の成長を確認できる。

(教えるという行為は受身ではできない)

⇒主体的な情報収集能力が養われるので、卒業後も就職先などで、自発的に物事を進められるようになる。

今後の課題

全学生に参加してもらい、学生全体の質の向上を図るために、1～2年次の段階で、上記のキャリア支援を制度化や単位化することも視野に入れて、全学的に取り組んでいく必要がある。